

新年を迎えて

農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課農薬対策室長 **宇井伸一**

2026 年を迎え、皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は農薬行政に対し格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年 2025 年は、2021 年に開始した農薬の再評価制度において重要な進展がありました。チフルザミドを皮切りに、12 月初旬時点で、2 成分について再評価が終了しました。またネオニコチノイド系農薬の蜜蜂影響評価を始め、順次最新の科学的知見に基づく審査を進めているところです。

また、食料・農業・農村基本計画（令和 7 年 4 月 11 日閣議決定）において、「農薬の一層の安全性向上に向け、2018 年の「農薬取締法」改正に伴い導入した農薬の再評価制度により、すべての農薬について最新の科学的知見に基づく再評価を円滑に実施する」としており、安全性を確保しつつ、事務手続きの面で再評価の円滑化に向けた取組を検討、実施しております。2025 年には、次の 3 点を実施しました。

第一に、審査スキームの見直しです。従来、食品安全委員会での評価が終了した後、農業資材審議会農薬分科会使用者安全評価部会で審議し、それに続き消費者庁の食品衛生基準審議会で審議する流れで再評価を進めてきたところ、この直列型ではなく、審議状況を共有しながら審議を進める並列型の進め方に変更しました。今後とも関係府省との連携をいっそう強化することにより、審査の円滑化を図ってまいります。

第二に、提出資料に対する指摘事項のフィードバックを拡大しました。提出資料に対し、関係府省、審議会等から指摘した事項のうち、一般化できる事項については、農薬製造事業者等全体にフィードバックし、農薬製造事業者等による資料作成、関係府省による資料確認の円滑化を図っているところです。

第三に、再評価の進捗状況をよりわかりやすく公開するようにしました。再評価の審査状況として、関係府省において実施される各種評価の進捗を具体的な日付の入った表に整理し、農林水産省ホームページに公表しています。

再評価は今後、化学農薬に加え、天敵や微生物農薬といった生物農薬についても順次進めていくこととなります。これらは環境負荷低減に資する重要な防除手段であることから、来るべき再評価開始に向け、準備を進めているところです。

さて、2021 年に策定されたみどりの食料システム戦

略において、化学農薬使用量（リスク換算）の 50% 低減（2019 年比）の KPI が掲げられました。近年の状況を見ると、基準年である 2019 年を下回る水準で推移しています。他方、近年の気候変動の影響により、一部の病害虫の発生や被害が問題となっており、一例を挙げればイネカメムシが幅広い地域で発生し、斑点米や不稔を引き起こすなど、病害虫被害のリスクは高まっています。こうした状況下で、農薬は食料安全保障を実現するうえでも極めて重要な役割を担っています。病害虫への対応は農業現場にとって生産の基本であり、安全な農薬が確実に提供されることが、農家の皆様方に安心して生産を続けていただき、安定的に食料を供給するための基盤となります。

また、持続的な農業生産を進めていくためには、環境負荷低減に必要な技術の地域への普及も重要です。このため、これらの普及に当たり特に必要な農薬について、農薬登録における優先審査の対象に追加しました。このような措置を講じることにより、生産資材や栽培体系が多様化する中、生産現場で求められる資材が迅速に供給されることで、環境にも配慮しつつ効率的な防除の推進を図ってまいります。

必要な農薬の確保もさることながら、農薬の使用方法を遵守する適正使用の推進も重要です。特に、土壌くん蒸剤であるクロルピクリン剤については、使用に際して被覆が必要な農薬であり、適切な処理を行わなければガスの拡散によるリスクが高まります。このため、関係団体と連携してクロルピクリン剤の安全・適正な使用を確認するためのチェックシートによる啓発活動を実施し、現場での活用を推進しています。2025 年 2 月の運用開始以降、現場からのご意見を踏まえ、同年 10 月にはチェックシートの一部改訂を行いました。今後とも農薬使用における安全性の確保のため、適正使用に係る取組を進めてまいります。

先にも述べました、食料・農業・農村基本計画において、農薬は「食料安全保障の確保」「農業の持続的発展」「環境と調和のとれた食料システムの確立」に貢献するものとして位置づけられています。今後も、人の健康、環境に対する安全性を科学的に確保しつつ、農業の生産性向上と持続性の確保を図るべく、安全性や品質の確保と適正使用の両輪で農薬行政を運営してまいります。

本年も引き続き、関係者の皆様のご理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

For the New Year. By Shinichi Ui